

# 水稻・麦・大豆栽培情報 8月号－2

平成26年8月19日  
J A 柳 川  
南筑後普及指導センター

## 【水稻】

### 1 病虫害防除

8月上旬～中旬に、曇雨天の日が続き、「元気つくし」、「ヒヨクモチ」において葉いもちの発生が多く見られています。「ヒノヒカリ」においても散見されています。

※基本防除は、以下のとおりとなっています。

品種	予想出穂期	使用薬剤及び使用量	防除時期
元気つくし	8月23日頃	ブラシンバリダ ジョーカー粉剤DL 4kg/10a	8月26～30日
ヒノヒカリ	8月28日頃		8月28～ 9月2日
ヒヨクモチ	9月7日頃	MR. ジョーカー粉剤 DL 4kg/10a	9月2～8日

・予想出穂期の目安は、「元気つくし」が6月20日頃、「ヒノヒカリ」・「ヒヨクモチ」が6月24日頃移植の場合です。

・出穂期とは、ほ場の40～50%程度が出穂した日のことです。

※「ヒヨクモチ」において、葉いもちが見られる場合は、ビーム粉剤 DL (4kg/10a) を8月末から9月初旬（出穂前）に散布します。なお、「ヒヨクモチ」は減農薬のため、補正防除は2回までです。いもち剤の散布を行うと、補正防除はあと1回になります。

### 2 水管理

出穂期前後5日程度は、水稻の生育期間中で水を最も必要とする時期です。土壌が乾燥すると減収につながりますので、十分に水をためておいて下さい。

出穂期以降は、根の機能維持のため、間断灌水を行います。

## 【大豆】

### ○病害虫防除

8月上旬～中旬に曇雨天の日が多く、ハスモンヨトウのほ場での発生は、少ないようです。8月中旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数についても、昨年より少ないようです。ただし、8月末～9月上旬に、ほ場で白変葉が多い場合は、下表の期間に補正防除を行い、ハスモンヨトウによる被害を抑制しましょう。

#### [1回目防除] 補正防除

対象病害虫	防除適期	使用薬剤及び 希釈倍数	使用液量 (10a)
ハスモンヨトウ	9月上旬	ノーモルト乳剤又は アタブロン乳剤 2000倍	100L

※散布に際しては、ほ場により発生状況が異なるため、幼虫の小さい時期を確認し適期防除を行って下さい。

#### [2回目防除] 重点防除

大豆の莢伸長期から子実肥大期に、曇雨天で涼しい天候が続いた場合、紫斑病の発生が多くなります。本年は、紫斑病の発生が懸念されますので、ハスモンヨトウ、カメムシの防除と合わせて、下記の薬剤を必ず実施してください。

対象病害虫	防除適期	使用薬剤及び 希釈倍数	使用液量 (10a)
ハスモンヨトウ	9月下旬	ペガサスフロアブル 2000～4000倍 又は プレバソフフロアブル5 4000倍	100L
カメムシ類		スミチオン乳剤 1000倍	100L
紫斑病		トップジンM水和剤 1000～1500倍	100L

※薬剤は葉の表裏にしっかりかかるように散布しましょう。

※なお、一部地域ではハダニ類が発生する場合がありますので、多発時はダニトロンフロアブル（1000倍、使用液量150L/10a）で補正防除して下さい。

#### 農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル(農薬使用基準)を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！